

グリーンインフラのすすめ

＜SDGsウェディングケーキモデルをご存じですか＞

SDGsは、2015年に国連において加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ(行動計画)」に記載された「よりよい世界を目指す国際目標」です。それを総合的にとらえるためモデル化されたものが**SDGsウェディングケーキモデル**(下図)です。

土台は、地球上の全ての生き物の生活・生存環境の保全にありSDGsでは、「15陸の豊かさを守ろう」、「14海の豊かさを守ろう」、「6安全な水とトイレを世界中に」、「13気候変動に具体的な対策を」が自然資本(生物圏)の目標になっています。

しかし近年、地球温暖化に伴う気候変動や無秩序な開発の結果、世界各地で発生する豪雨災害や灼熱の夏、また絶滅危惧種の増加に見られるようにこの土台が壊れ始めています。そのためケーキの上部にある「社会圏」や「経済圏」を支えているこの「生物圏」を守り豊かにすることが今、大変重要とされています。



出典：ストックホルムレジリエンスセンター資料を加筆修正

※この図は、産業経済資本や人的資本を支えるために、より充実した社会資本が必要であり、社会資本を支えるために、さらに充実した自然資本を保持・創出することが大切だという、持続可能な世界の構造をウェディングケーキに見立てたものであり、「みどり」は自然資本にあたります。

※出典：「北九州市緑の基本計画(令和4年1月改定版)」より



グリーンインフラのすすめ

〈なぜ今、グリーンインフラか〉

作家の司馬遼太郎氏は、晩年、歴史から学んだこととして「昔も今も、また未来においても変わらないことがある。そこに空気と水、そして土などという自然があって、人間や他の動植物、さらには微生物にいたるまでが、それに依存して生きている。自然こそ不変の価値なのである。」と未来を生きる子供達に語っています。

グリーンインフラ(下図)とは、自然環境が有する機能を賢く利用することや自然の在りように沿った土地利用計画によって、持続可能な社会と経済の発展を図るための自然資本の一つです。グリーンインフラを今後の国土形成や都市の再構築に活かし、このケーキの土台が壊れないようにすることが必要です。

【グリーンインフラのイメージ(国土交通省のホームページより)】



【北九州市内の事例】

例①グリーンインフラ 減災

河川の一部を拡幅して大きな水溜を設置。
(北九州市 板櫃川)
通常は親水公園

北九州市 板櫃川
二級河川
長さ:9.693km
平成29年7月7日

平時
親水公園
水生生物の
住処

降雨時

〈私たちが目指すもの〉

グリーンインフラに取り組み、造園技術を生かした**災害の少ない街づくり**

住みたい街、住み続けたい街をつくりましょう！

